



国総研資料第 1346 号

「気候変動に伴う作用条件の変化に対する既存防波堤の改良に関する意思決定問題における応答曲面法の適用」 を刊行します

気候変動に伴って、既存防波堤では波高や潮位などの作用条件が変化することにより損傷の危険度が高まる恐れがあります。将来このように作用条件が変化することを考えると、様々なケースを想定して防波堤の安定性照査を実施する必要があり、その作業負荷は非常に大きくなります。

本研究では、将来的な作用条件の変化量の想定の不確実性を踏まえて、既存防波堤を対象に、作用条件の変化に伴う性能評価や補強対策の効果の検討を効率的に行うために、応答曲面法を用いる実務的な評価手法を提案しました。併せて、提案手法の活用事例として、簡便なリアルオプション分析を適用し、補強対策の効果の検討と実施時期に関する意思決定に活用できる可能性を示しました。

<目次>

- 第1章 はじめに
- 第2章 作用条件の変化に対する対策選定手法の提案
- 第3章 既存防波堤の安定性の応答曲面関数化
- 第4章 補強対策の効果及び対策優先度の評価
- 第5章 まとめ

本資料は、国総研ホームページで公開しています。

ダウンロード先URL：<https://www.ysk.nilim.go.jp/kenkyuseika/pdf/ks1346.pdf>

(問い合わせ先)

国土技術政策総合研究所 管理調整部 企画調整課

TEL：046-844-5019 E-mail：ysk.nil-46pr@gxb.mlit.go.jp